

夢に向かって

“ものづくり”にかける思い——

佐藤 凜空^{りく}さん（県北中3年）

僕の夢は、まだしっかりと決まっていませんが、機械関係の仕事に就きたいと思っています。特に、もの作りに関わる仕事をしたいです。

おじさんが機械関係の仕事をしていたので、小さい頃からよく仕事場の見学をさせてもらっていました。いろいろな機械や工具が置いてあって面白くて、いつか自分もやってみたいと思うようになりました。

進学先は決まっています、工学科で学ぶことになります。しっかりと学習して、自分のやりたいことを見つけられるようにがんばります。あきらめず最後までやり通して、何事にもチャレンジできるようになりたいです。

大人になって仕事に就いたら、先輩のアドバイスをよく聞いて、自分の悪いところやできていないところを改善できるようにしたいです。高校進学に向けて、受験は終わりましたが安心せず、将来に向けて一日一日を大切に過ごして行きたいと思っています。



将来はものづくりに関わりたいと話してくれた佐藤凜空さん。「将来に向け、卒業までの期間を大切に過ごしたい」と、3年間の中学校生活を振り返り、笑顔で話してくれました。



町長コラム

ま
真 ころむ

【第20回】

卒業おめでとう

春は何となく苦手だ。

小学4年のころから折にふれ、「お前が通うのはここだ」と父親に連れて行かれた高校があった。だから、いつの間にか自分もそのつもりでいた。でも…。合格するつもりでいたから滑り止めは受験しなかった。16歳になる年は予備校通い。当然、成績は上がる。模擬試験はいつも合格圏内。親も予備校や中学時代の先生たちも「大丈夫」と思っていた。巡って来た2度目の受験。結果はまた挫折。絶望だった。春が苦手なのはこのせいかもしれない。

今年は小中学校の卒業式に招かれた。卒業式を前に、特に中学3年の子どもたちへの思いは深い。人生の中で一番に心と体が成長する時期なのに、入学からずっと新型コロナウイルスに振り回された3年間だったから。自分たちのせいではないのに、当たり前が当たり前でなくなったから。

救いは、柏葉祭の彼ら、中体連の彼ら、自転車で登下校する彼ら、給食を頼張る彼ら、コンクールや演奏会に向けて団結する彼らを見たり、想像したりすると、雁字搦めの日々なりに「生きる」を体現していること。頼もしくなること。

失敗しないに越したことはないけど、失敗を怖がらないで欲しいなあ。案外、失敗の先に幸せになるための「種」がある気がする。それに、卒業＝お別れ。いやいや、そうじゃないから。卒園、卒業、おめでとう。

引地 真

